

がん検診受診のすすめ

我が国では、がんの罹患数と死亡数が人口の高齢化により増え続け、一生のうち **2人に1人** が「がん」にかかり、年間 **3人に1人** が「がん」で亡くなっています。がんと診断された方の生存率は多くの部位で上昇していますので、自覚症状がなくても検診を継続して受診してください。

がんの統計データ

部位別がん死亡数

(2024年データ)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳	胃

部位別がん罹患数

(2021年データ)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	前立腺	大腸	肺	胃	肝臓
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮

がん死亡数の変化

人口の高齢化の影響を除いた年齢調整率は、男女ともに胃、大腸、肺がんは減少していますが、女性では子宮頸がん、乳がんは増えています。

がん検診の「メリット」「デメリット」

がん検診には、がんを早期に見つけて治療すれば、がんの死亡率を下げる可以说是できるという大きなメリットがある一方、デメリットもあります。両方をよく理解したうえで、定期的にがん検診を受診してください。

メリット

- 最大のメリットは、早期発見、早期治療による救命です。
- 早期治療が可能になることで、身体的・精神的な負担や経済的負担を軽減できます。
- がんになる前段階の病変（ポリープや潰瘍、異形上皮など）が見つかることがあり、必要に応じた治療でがんの発生を未然に防ぐことが可能となります。

デメリット

- がん検診の判定・診断結果が100%正しいというわけではありません。
- 精密検査にて結果的に「異常なし」である場合もあり、不必要な治療や検査をうけてしまうことになる可能性もあります。
- 検査によっては身体に負担がかかってしまうことがあります。

がん検診受診

がん検診は、症状のない健康な方が対象となります。症状のある方は医療機関を受診することが重要です。

異常なし

要精密検査（紹介状を発行します）

「要精密検査」と言われたら、がんの疑いを含め異常が「ありそう」と判断されたということです。必ず医療機関を受診しましょう。

精密検査不要

医療機関を受診

次回のがん検診

異常なし
または
良性病変

経過観察

治療

継続してがん検診を受診しましょう。

次回のがん検診は不要です。主治医の指示に従い、必要な検査を受けましょう。



精密検査結果について

医療機関で受けられた精密検査の結果は、国の指針に基づき、がん検診の精度管理のために、健診機関、精密検査実施医療機関で情報を共有させていただきます。なお、市町村実施のがん検診を受診された場合は、がん検診の精密検査結果を委託元である市町村とともに共有させていただきます。ご理解のほどお願いいたします。

紹介状を
受け取られた方の
詳細はこちら

